

進路状況について

進路指導部長 榎本文裕

①近年の進学動向

大学全入の時代となり、学校さえより好みしなければどこかには入れる状況となりました。これは上級学校の学校経営からすれば大変なことであり、実際に学生が集まらずに倒産するところも出てきています。このような状況の中、定員割れが危惧される学校の多くは、入学者数の確保に向けた取り組みを行っています。例えば、オープンキャンパス参加者への交通費支給や推薦入試への特典、早期AO入試での特待生試験・特待生入試の増加などがあります。一見するとありがたい話ですが、長い目で見たときにどうなのかを生徒と保護者には考えてもらいたいのですし、やはり学ぶ場として相応しい学校選びという基本線から外れないでほしいと考えています。

一方、国公立大や有名私立大については、受験生は安定して確保されており、難易度は下がってはいません。山形大学では、県内出身者が四分の一という状態です。仙台直行バスで通学している学生が朝夕多くみられるという話です。このことはすなわち、県内受験生

にとって山形大学は難易度が高く、俗にいう県内進学校からでも合格が難しくなっていることを物語っています。このような中、残念ながらセンター試験で勝負できる本校生は少ない状況です。平成二十七年度は十九名の国公立大合格者を出しましたが、このうちセンター試験を使つての合格は三名のみでした。二次試験にも五名の生徒がチャレンジしましたが全員不合格でした。

このような中、本校では推薦入試に対する個別指導に力を入れています。全教員が四～五人程度の生徒を受け持ち、昼休みや放課後の時間に個別指導を行っています。現在ではこの指導が本校の入試指導の核となっています。単に合格のテクニックを教え込むのではなく、希望進路に対する考えを深めながら小論文や面接の指導を行っています。長年積み重ねてきたものが本校の強みとなっており、昨年度は国公立大学の推薦入試合格者が十六名でこのうち山形大学は七名、この数字は推薦入試において県内トップクラスでした。

短期大学については、四年制大

学への編入に力を入れているところが増えてきており、これを目的に受験する生徒も出てきています。本校においても、以前よりは減少していますが、毎年二十人以上が進学しています。中でも米沢女子短大への進学が毎年多く、昨年度は十名でした。

看護医療系への進学も、毎年二十人以上が進学しています。看護学校への進学は勿論ですが、近年は四年制の看護学部への進学が増えつつあります。また、リハビリ系の人気が根強く、県内外の大学や専門学校に進学しています。

②近年の就職動向

少子高齢化の影響もあり、近年は県内外ともに求人数が大変多い状況が続いています。また、普通科のみとなったことで就職希望者が激減し、地域の企業の方々に迷惑をおかけしている状況です。従つて、第一志望の企業に就職できる割合は大変高いものになっています。また、公務員についても安定した募集が続いており、本校でも消防・自衛隊・警察を主軸として毎年数名程度の合格実績を出しています。昨年度は山形県職員（初級行政）と山形県警への合格もあり、南陽高校の進路先の一つ

過去3年間の進路実績

	平成25年度 (23年目)			平成26年度 (24年目)			平成27年度 (25年目)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
四 大 (国公立)	32 (10)	39 (8)	71 (18)	33 (5)	28 (4)	61 (9)	45 (10)	30 (9)	75 (19)
短 大	1	21	22	2	19	21	2	20	22
各種専門	25	39	64	24	26	50	20	30	50
進学者計	58	99	157	59	73	132	67	80	147
県内就職	3	5	8	0	1	1	2	7	9
県外就職	0	1	1	3	2	5	0	3	3
公務員	4	0	4	7	0	7	5	1	6
就職者計	7	6	13	10	3	13	7	11	18



クラスマッチの綱引き



書道パフォーマンス

として公務員が定着していると言えるでしょう。

③過去三年間の進路実績

過去三年間の進路実績を表にしておりますのでご覧ください。

二十五年前に一学年八クラスでスタートした南陽高校も、もうすぐ半分の四クラスとなります。少子化とはいえさびしく感じられます。しかし、これからの地域に必要とされる高校として存続することを念頭に置いています。幅広い進路希望の生徒たちが安心して通える高校として、これからがんばっていきます。同窓生のみならずには、これからの南陽高校を温かく見守っていただくとともに、若い同窓生が身近にいましたら優しく面倒を見ていただけたら大変ありがたいです。